

1 . 観光の基本理念

(1) 観光を取り巻く環境変化

これまでの社会情勢

- ・ 高度成長経済、バブル経済の進展
- ・ 経済発展の礎となったインフラ整備
- ・ 都市開発、大規模開発の進行
- ・ 戦後のベビーブームと急速な人口増加
- ・ 欧米社会への追随
- ・ 行政主導による地域発展
- ・ 地方都市の衰退

【観光のスタイル】

- ・ 物見遊山型の観光ブーム
- ・ 団体旅行の活発化
- ・ 旅館による囲い込み
- ・ 大規模リゾート志向
- ・ テーマパーク等大型施設の開発
- ・ 海外ブランド志向
- ・ 豪華料理志向

社会情勢と 価値観の変化

これからの社会情勢

- ・ 人口減少と成熟型社会の時代
- ・ 低成長経済への移行
- ・ 地方や地域主体の時代へ
- ・ ゆとり、自然、健康志向への変化
- ・ 高齢化と少子化の進展
- ・ 団塊世代の大量退職、2007年問題
- ・ 行政主導から市民参画のまちづくり
- ・ 国際化や高度情報化等グローバル化

【観光のスタイル】

- ・ 地域振興の切り札としての期待
- ・ 体験学習型、参加交流型志向
- ・ 個人趣味、家族、グループ旅行
- ・ ゆとり、うるおい、スロー型志向
- ・ 自らの足や舌で楽しむ旅の志向
- ・ 地域の歴史、食、健康づくりの志向
- ・ 外国人旅行者の急増

(2) 新発田市の観光特性

新発田市の特性

- 【人口等】・新発田市、豊浦町、紫雲寺町、加治川村の平成合併
・人口約10万人、集落人口の減少と中心市街地の低迷
- 【産業】・既存小売店減少、商店街低迷、郊外型店舗の台頭
・県内第1位の産出額を誇る米（コシヒカリ）と乳用牛
・農林業、漁業の低迷（市場経済の混迷と従事者や後継者の減少）
・食品加工産業の集積
- 【交通】・人口81万の県都新潟市に隣接、約30分でアクセス
・新幹線や高速道による広域交通網の整備（日東道聖籠新発田ICあり）
・新潟市における国内外の航路、空路網（新潟西港、東港、新潟空港）
・中心市街地にJR新発田駅、月岡温泉街から約3kmにJR月岡駅

資源の活用と改善

活かしたい点

【城下町400年の歴史文化資源】

新発田城、寺町通りの街並み、清水園や足軽長屋、和菓子や新発田まつり（台輪）、職人技など

【全国的にも有名な月岡温泉と日帰り入浴施設資源】

月岡温泉街、紫雲の郷、あやめの湯、城山温泉、貝屋温泉、二王子温泉、天神の湯

【加治川水系に広がる田園景観と産業資源】

穀倉地の農業生産、松塚漁港の水産物

【美しい自然が織りなす山岳、海洋資源】

飯豊山（日本百名山）、日本海（砂浜海岸）、天然記念物大峰山とちだいら椽平ヤマザクラなど

【その他、各地域の観光資源】

落谷虹児記念館、白壁兵舎、市島邸、菅谷不動尊、伝統行事、郷土が誇る歴史上の人物、各界で活躍する人物、加治川堤桜・あやめ園・レンギョウ等花の名所、食材や郷土料理などの食文化、大規模な公園・レクリエーション施設など

改善したい点

【観光入込数】

観光入込数の減少、宿泊率の低下、シーズンや観光目的の偏在、県外客の減少等

【観光地としての環境とメニューの魅力】

観光地や資源の魅力不足、わかりづらい案内誘導、風情や歩行空間欠如、未活用資源

【情報発信、受け入れ体制】

誘客の情報提供不足・不備、受け入れサービス（体制）不足、市民参画の意識不足

【連携】

観光資源のネットワーク、観光関連団体の連携不足、事業者間の連携不足

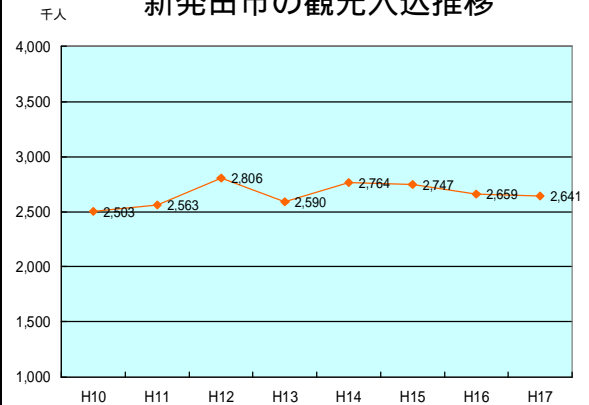
新発田市の観光分布



地域の交通網



新発田市の観光入込推移



(3) 基本理念

観光が果たす役割

観光者に対する役割

- ・充実した国民余暇活動の展開
- ・ニーズに即した観光メニューの提供と健康で文化的な生活の支援

地域に対する役割

- ・交流人口の増大による地域産業の活性化
- ・観光振興を契機とした美しい地域と住みよい地域づくり
- ・自然や景観の保全と歴史文化の継承による誇れる地域の形成
- ・市民参画のまちづくりと観光による地域活力の向上
- ・ボランティアガイドなど高齢者、団塊世代等の活躍の場の創出

新発田市の歴史とこれから

歴史的背景

陸奥守鎮守府將軍平維茂の子孫「城氏」による奥山荘の造営

平安時代、加治川と荒川間に中世荘園が築かれ城氏が支配する。

源頼朝の家臣佐々木盛綱とその一族(新発田氏)による越後の支配

1400年代から150年間は佐々木氏とその一族による蒲原郡の支配が続く。

豊臣秀吉の家臣溝口秀勝による蒲原郡の入封(六万石)と新発田城の造営

1595年加賀大聖寺から来た秀勝、そして歴代藩主により、加治川水系の治水や湿地帯の干拓が進められ、多くの水田と村落を形成、商業交易などで栄えた。

大倉喜八郎(財界人)、佐藤哲三や落谷虹児(画家)などの人物を輩出

明治から昭和初期にかけては、陸軍の駐屯、製糸工場や赤谷鉱山等による産業・文化の発展を通して多くの人材を輩出。

これからの展望

平成の合併による新たな発展への契機

- ・平成15年、17年と相次いで豊浦町、紫雲寺町、加治川村と合併、各地区の特性を活かした産業の発展や新たなまちづくりが期待される。
- ・今後も県都新潟市との経済・文化・観光面での連携と活力向上が期待される。

新たなまちづくりに向けて

- ・「愛せるまち 誇れるまち ふるさと新発田の創造」を基本理念とし、新発田市の豊かなる大地を活かし「食料供給都市構想」を展開。
- ・観光まちづくりを目指し、観光の活性化をはじめ、交流人口増加と人口定住化促進に向けて観光を推進。